



表紙 コンポジション

ビエト・モンドリアン画

解説は30ページ

題字デザイン・桑山弥三郎

カット・林美紀子

もくじ

彼岸へ赴く夕日に  
——一つの視座からみた遺跡——……………水野正好 4

「鑑真大師像回国巡展」随日記……………鷺塚泰光 7

〔報告〕  
ヨーロッパの新しい劇場  
——英国国立劇場に我が国の  
第二国立劇場(仮称)の計画を重ねつつ——  
……………吉井澄雄 10

〔随想〕  
歌舞伎の改革……………福原匡彦 12

大衆芸能の系譜……………田中英機 14

---

文化庁ニュース

国立美術館所蔵内外美術名品展の開催について……………16

「ボンビドウ・センター／20世紀の美術」……………16

ユーゲ海キュクラデス諸島出土  
「ギリシャ美術の源流」展  
——グーランドリス・コレクションから—— ……17

「現代ガラスの美——ヨーロッパと日本——」……………18

第4回日本民謡まつりの開催……………19

昭和55年度国語問題研究協議会の開催 ……20

第10回移動芸術祭秋季公演、9月から全国各地で……………20

---

祭礼歳時記シリーズ ⑤  
9月の祭り……………天野 武 24

海外文化行政事情シリーズ ② (CDI報告書から)  
全米芸術・人文科学財団……………松野 精 26

著作権シリーズ(15)  
著作権の制限——試験問題としての複製——  
——点字による複製等——……………29

国立劇場ニュース……………31

# 歌舞伎の改革



福原 匡彦  
(前国立劇場理事長)

明治二十年(一八八七年)四月、時の外務大臣井上馨の私邸に明治天皇の行幸を仰いで奉行された歌舞伎公演は、歌舞伎の歴史の中で画期的な出来事だったようであるが、その天覧劇の主催者たる井上馨は私の父方の親戚であり、また、その天覧劇の総監督として制作演出にあたった時の内務省参事官末松謙澄は私の母方の親戚になる。正確にいえば、井上馨は祖母の実兄すなわち父の伯父にあたり、末松謙澄は祖母の妹の義兄という関係、つまり母の叔母が謙澄の弟に嫁いでいるのである。

今どき、こんな家系のことを持ち出すのは時代錯誤といわれるかもしれないが、そこは、襲名披露や追善興行の際の「口上」にあたってははじめにその名跡との関係をうたい上げる歌舞

と、座付の作者でなく学者文士が脚本を書いているのが井上馨なのである。この演劇改良会の提唱は非常な反響をもって迎えられたと伝えられる。この提唱に基づいて「改良劇場」の建設が計画され、英人コンドルにその設計が委嘱されたようだが、これは実現を見るにはいたらなかった。しかし、現在の国立劇場の祖型はここにあるといってもよい。

天覧劇はこうした背景のもとに挙行された。すでにそれまでの経過の中で、上流家庭へ余興的出演を重ね、外人の招待観劇も繰り返され、欧化、社交場化への道を辿りつつあった歌舞伎にとって、天覧劇はまさにその頂点をなす行事であったが、井上からその制作演出を一任された末松にしてみれば、これは演劇改良会の理念のまたとない実験の場でもあったわけである。もちろん勘弥・団十郎などを相談相手にはしたようだが、演目の選定、役者の配役、仮設舞台の設計から脚本詞章の添削までも末松は行って

伎の世界ではなしとお許し願いたい。

さて、この天覧劇は、明治初年以來の歌舞伎の改良運動と密接にからんでおり、井上・末松両人はその改良運動にも重要な役割を果たしている。まず、そこにいたるいきさつを眺めてみよう。

江戸時代、歌舞伎が遊廓と並んで「悪場所」として扱われたのは、徳川幕府がその内容を猥雑で不健全なものに見なしたからだろうが、幕府の抑圧にもかかわらず、歌舞伎は民衆の娯楽として圧倒的な人気を博していた。役者も河原者の汚名に甘んじていたけれども、実際には、他の芸術家などよりは遙かに強く民衆に愛されていたようだ。

明治新政府は、その影響力の点に着目し、歌

いる。天覧劇は成功を取めた。歌舞伎が天覧に浴するということとは、歌舞伎の歴史はじまって以来のことであって、歌舞伎ならびにその役者の地位がようやく社会的に認知されたことを証明するものだったのである。社説に「日本俳優多年の志願ここに成就したりと謂ふべし」と書いた新聞もあったという。

しかし、それにひきかえ、そこを実験台にして一大飛躍をとげる筈だった演劇改良会の運動の方は、間もなく井上の退陣、欧化政策の転換という事態を迎えて、急激に沈滞していく。そしてこの改良会の業績は、演劇史上の評価にしても、政府という「上」から与えられた改革であり、皮相な西洋模倣の改良運動だったから上滑りしたのだと、必ずしも好意的でない。だが、一概にそう決めつけるのはどうであろう。この試みは、歌舞伎を時代にふさわしく改善していくための貴重な模索であり、努力だったのである。改革を急いだための幾多の過ちはあったにしても、これはこれで大きな意義があったのではなからうか。

それは、私が井上・末松の縁者に連なる者としての身びいきからいうのではない。九十年の歳月を隔てて、この運動の遙かな一つの結実ともいふべき国立劇場に私はゆくりなくも勤務することとなり、歌舞伎の世界にじかに触れてみ

舞伎を民衆教化のための手段として利用しようとした形跡があるが、そのためには内容を高尚上品なものに改良する必要があるとし、劇界側も興行師十二代目守田勘弥を中心として政府側の要請に対応する動きを示した。学者では依田学海、役者では九代目団十郎などがこの動きに大いに協力し、荒唐無稽を排除して史実を尊重しようとする「活歴のもの」がはじまったのも、この演劇改良運動の一つの展開であるとされている。

ところで一方、明治政府は対外的に安政以來の不平等条約を対等なものにするためのいわゆる「条約改正」問題をかかえて苦慮していたが、外相井上馨は首相伊藤博文とともにその方策として欧化主義を推進し、わが国の文明開化ぶりを誇示しようとして、たとえば明治十六年、内外貴顕の社交場としてかの鹿鳴館をつくり、同十八年にはそこで第一回の舞踏会を行っているのである。

この外交政策としての欧化主義が前述の演劇改良運動の流れと結びついた線の上に、明治十九年の「演劇改良会」の発足があり、また、翌二十年の天覧劇の上演がある。

演劇改良会は、ヨーロッパの劇場に範をとった理想的な劇場を建設すること、紳士淑女が鑑賞できる高尚な演劇を上演すること、勧善懲悪などという講釈はやめ芸術的な脚本をつくるこ

と、歌舞伎の改革ということがどんなに大変なものであるかを身をもって承知したからである。もちろん、九十年前と現在とでは状況が甚だしく異なっていることは当然だが、歌舞伎をいかにその時代にマッチさせるかという改革のテーマそのものは少しも変化していない。現在にあって、歌舞伎の周辺には改革の方向を手探りしている事柄が少なからずあるのである。古い脚本のアレンジの問題、新しい脚本発掘の問題、演出制度採用の問題、役者の力量と家柄の問題、配役適正化の問題、給金合理化の問題、後継者養成の問題、興行の形態・興行時間の改善の問題、観客層の開拓の問題等々、それぞれがたがいに絡み合いながら、現代化の課題を背負って戸惑っている感じである。

演劇改良会の時代とは違って、理想をかざして歌舞伎の行くべき道を説く人は少なくなっている。役者の自覚に基づくものもあるし、興行関係者の政策によるものもある。もちろん国立劇場もその使命から精一杯の助力を重ねている。しかし、歌舞伎という怪獣はのっそのりしか歩まない。この程度のことで大丈夫なのかと案じられないではないが、これまでいくたびも危機を乗り越えてきたこの怪獣はいつまでも不死身なのかもしれない。

編集後記

○夏の風物詩といえは、夏祭り、盆踊り、花火大会等いろいろある。小さな地域的行事でも、子供の頃の夏休みの思い出と重なって忘れられないものである。先般公表された文部省の調査報告書によると、八割以上の人が祭りや地域の運動会など、心のふれあいや連帯感を強めるような行事・活動に参加しているとのことである。最近、都会でも祭りなどの行事が盛んになつてきているが、人々が心のふれあいを求めているのであろうか。

○今月は、水野正好氏の巻頭をいただいた。いみじくも筆者が、平安人を洗む夕日を見ることに想い起こす云々」と述懐しておられるが、もの言わぬ遺跡でも永年埋蔵文化財の保護に尽力されている氏の情熱が、読者をはるか平安人の西方極楽往生の理想観の世界へなまなましく導いてくれるようである。

(〇)

広告の問合せ・申込み先

株式会社 ぎょうせい 営業課  
TEL(〇三三)六八二一四二(代表)

「文化庁月報」八月号

(通巻第一四三号)  
昭和55年8月25日印刷・発行

編集文化庁

〒100 東京都千代田区高松3丁目2番2号

発行所 株式会社 ぎょうせい

本社 〒100 東京都中央区銀座7丁目4番12号

営業所 〒100 東京都新宿区西五軒町52番地

電話(〇三三)二六八二二四(代表)

振替口座 東京 九一六二一六

印刷所 株式会社印刷所

年間購読料 二、一六〇円(送料二九円)